府立守口東高等学校
校　長　藤原　　大

令和６年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」の教育目標のもと、社会で通用する規範意識を醸成する。また激動の社会で力強く生き抜き、生涯を通じて学び続ける力を高めようとする姿勢を育む。

１　基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるように、思考力、判断力、表現力を育成する。
２　特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。
３　挨拶励行・時間を大切にする・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
４　寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者から信頼され、安心して学ぶことができる学校となる。
５　全ての生徒が他者理解や思いやりの心を持つとともに、自らを大切にし、夢や希望を持って新しい社会を切り開く態度を育成する。

２　中期的目標

１　社会で通用する基礎学力の定着と希望する進路実現

（１）基礎学力の充実と授業における ICT の効果的な活用を図る。
ア　１年時の国数英授業において、生徒の理解度や希望する進路に応じて少人数習熟度別授業を行って基礎学力の充実を図る。
イ　教科・科目の特質等を踏まえた上で、１人１台端末及びプロジェクターを効果的に活用して ICT を効果的に取り入れるとともに、生徒が協力して学び、成果をアウトプットできる授業を推進する。
※　少人数授業アンケートの実施教科平均の肯定率　令和８年度 90%以上を維持（R３：92%，R４：95%，R５：93%）
※　教育産業の１・２年生基礎力診断テストの GTZ 平均値（国数英）　令和８年度までに C3-（R３：D1-，R４：D1-，R５：D2＋）

（２）希望する進路の実現を図る。
ア　一人ひとりの生徒が希望する進路を実現する。
イ　将来に夢や志を持って自己の可能性を広げ、自らの職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育を行う。
※　３年生徒向け「自分の希望した進路への満足度」　R８年度まで 90%台の維持（R４：96%,R５：98%）

（３）主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を行うとともに、授業力の向上、観点別評価の定着・改善を図る。
※　生徒向け学校教育自己診断の授業満足度　令和８年度 80%（R３：67%，R４：74%，R５：79%）

２　多様で変化が激しい社会で生き抜く力の育成

（１）遅刻指導や美化活動等の適切な生活指導や教育相談を通して、社会人として通用する規範意識の定着を図る。
ア　学校目標である「時を守り」を生徒に十分意識させ、粘り強く遅刻指導を継続し、遅刻数を減少させる。
イ　課題を抱える生徒について SC・SSW と緊密に連携し、支援委員会を中心に指導方針を明示し、生徒情報交換、ケース会議等を実施し生徒を支援することで生徒が安心して学校生活を送れるようにする。
※　遅刻者数　令和８年度 3000 以下（R３:3346，R４:3222，R５:3280　）
※　生徒向け学校教育自己診断「困ったことや悩みがあるとき相談できる先生がいる」肯定率　令和８年度 75%（R３：60%，R４：64%，R５：70%）

（２）特別活動等の活性化を図る。
ア　生徒会行事、学年行事、部活動を活性化し学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活を送ることができるように支援する。
イ　部活動、各種検定等の優秀者に対し、全校集会等の際に「守口東激励賞」を贈り、特別活動への参加や検定試験受験に向けたモチベーションアップにつなげる。
※　部活動加入率　令和８年度 40%（R３：36%，R４：27%，R５：38%）
※　生徒向け学校教育自己診断「学校行事が楽しい」肯定率　令和８年度 85%以上を維持（R３：83%，R４：77%，R５：87%）

（３）「いじめ防止対策推進法」のいじめの定義を踏まえ、いじめを認知した際には「いじめは絶対に許さない」との強い決意のもと、迅速かつ適切に対応する。
※　生徒向け学校教育自己診断「先生はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率　令和８年度 86%（R３：76%，R４：83%，R５：86%）

（４）災害発生時に迅速かつ安全に対応できるよう、市や近隣施設とも連携した訓練を実施し、万全の防災体制を構築する。

３　地域に愛される魅力ある学校づくり

（１）情報発信と外部組織との連携を図る。
ア　異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携等の機会を設定し、協働の意識を醸成する。
イ　Web ページ、メールマガジン、電光掲示板メッセージ等を充実させ、学校内の教育活動を内外に発信するとともに、中学生にとって行きたい学校となる。
※　保護者向け学校教育自己診断「HP やメールマガジンで学校の様子がよくわかる」肯定率　令和８年度 85%（R３：77%，R４：74%，R５：76%）

（２）授業等を通した国際交流を行うとともに、自身のキャリアデザインを考え、グローバルに活躍できる人材を育成する。

４　働き方改革の推進と機能的な校内体制の整備

（１）働き方改革の推進に全教職員で取り組む。
※　教職員向け学校教育自己診断「働き方改革を進めようと意識している」肯定率 70%（新設）

（２）安全衛生委員会で得られた情報を提供し、教職員間の意思疎通を円滑にするとともに、働きやすい職場の実現をめざす。
※　ストレスチェック分析結果における「職場の総合健康リスク」ポイント（全国平均 100 で低い方が理想）
令和８年度教育庁全体平均ポイント以下を維持（本校/教育庁全体R３：86/102，　R４：98/98，R５：88/99）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和６年 12 月実施分］	学校運営協議会からの意見
【進路指導・生徒指導等】（※以下［ ］内は前年度結果） ・生徒「学校へ行くのが楽しい」が 80%［85%］となりポイントが高いレベルだが下がった。同一学年で見ると、学年が上がるにつれ肯定率が下がる傾向がある。進路を見つめることや人間関係などが影響していると考えられるが今後も注視する必要がある。 ・生徒「進路を考える機会があり、進路指導を適切に行っている」が 89[88]と高いレベルを維持できている。進路指導部、３学年担任団の丁寧な指導が評価されている。 ・生徒「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」86%[86%]であった。各担任、学年団、教育相談などが連携して生徒対応した結果が表れた。	第１回（７/５） ・出前授業の参加者数が減ったことについて、生徒がどのような授業を希望しているかをアンケートして、生徒の要望に応じた講座を増やしていけたらよいと思う。 ・授業時数を考えながら、限定的に午後授業カットするなどして教職員が授業見学しやすいような機会を設けることはとてもよい考えだと思う。 ・学校は生徒にとっては生きていくうえでの基礎をつくるところ。設計図がないと基礎は作れない。どういう生徒を育てるか、ビジョンをもって、設計図をつくってほしい。 第２回（12/19） ・生徒にとっての「わかりやすい」を向上していけるように、教員間での授業見学研修をさらに活発にしたり、１人１台端末をより活用したりなどしてはどうか。 ・大学を選ぶ際に「学びたいこと」よりも「通学のしやすさ（遠くを選ばない）」で選ぶ傾

府立守口東高等学校

【学習指導等】 ・生徒「授業は分かりやすくためになる。」は昨年と変わらず 79[79]。教員「授業力向上のため、工夫・改善に努めている。」が 90[75]と大幅に上がったが、生徒と教員のポイントの差が何に起因するのかを考える必要がある。 ・「一番望む授業」については ①高校生として基礎学力が身につく授業 ②進路希望が実現できるように学力を高める授業 ③生徒に応じて授業レベルやスピードを細かく調整する授業 のうち、生徒、教員ではともに①がトップ、③が次いでいる。生徒のポイントは昨年とほぼ変わらないが教員は①のポイントが大きく伸びた。授業に取り組む中で生徒の学力を精査した結果と考えられる。 【学校運営】 ・教職員「分掌や学年の連携がとれていて、組織的に学校運営が行われている」は 65%［71%］となった。ポイントが下がった原因として何が考えられるのか、意見集約をするなど、次年度に向けて改善の必要がある。 ・教職員「教職員は生徒の意見をよく聞いている」が 91.9%、一方生徒「本校の校長、先生達は学校をより良くしようと頑張っている」が 86%となった。教職員の生徒に寄り添う姿勢がポイントに表れた。これを継続するようにしたい。	向にあるが、学問から大学を選ぶための工夫として、高専大連携の際に学校名を出さずに講義をしてもらい、学問そのものに生徒の興味が向くようにしてはどうか。 ・生徒にとって様々な選択肢「学びたいものが学べる」進学と就職の両方が出口として用意されていることは素晴らしい。 第３回（２/13） ・コロナ禍を経て保護者の考え方もかわってきており、家族会議がなくなって SNS でやりとりすることも増えている中で学校に対する意識も変わってきている。保護者の意識の中で学校は必ず行かなければならない場所ではなくなってきており、通信制希望者が増えている。その中で全日制なりの、学校に来たら「できる」「たのしい」があればよいと思うが、個々の対応にもなってくるのでなかなか難しいことでもある。 ・中学校での地震を想定した防災訓練では、より緊張感を保つために抽出生徒に役割を与え「トイレに閉じ込められた生徒を救出する」「負傷した生徒を救出する」など 10 個ぐらいのパターンを用意して対応訓練も含めた取組みを行ったりしているが、取り入れてみてはどうか。 ・働き方改革について、部活動を担当している教員の時間外在校等時間増が悩みの種となっており、しかしながらこれを改善するには学校単独ではなく全体で部活動指導の在り方について変えていく必要がある。

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[Ｒ５年度値]	自己評価
１　社会で通用する基礎学力の定着と希望する進路実現			＜学校教育自己診断は生診：生徒、保診：保護者、教診：教職員と略＞	
	（１）基礎学力の充実と ICT 活用授業	（１）	（１）	（１）
	ア　少人数習熟度別授業の実施	ア　１年生国数英は少人数習熟度別授業を行い、個別最適な学びを意識して取り組む。	ア　少人数授業アンケートの平均肯定率 90%以上を維持 93%[国 94%, 数 91%, 英 93%]	ア 肯定回答 93%[国 91%, 数 97%, 英 92%] 質問しやすい、勉強意欲が高まった、発表しやすいなどの意見があり、継続したい。（○）
	イ　教科・科目の特質等を踏まえ、授業における ICT の効果的な活用	イ　各教員が教科・科目の特質等を踏まえた上で１人１台端末を効果的に活用した授業に取り組むとともに、「授業見学週間」においては一層積極的に１人１台端末をはじめ ICT を活用した授業を公開する。	イ　１人１台端末を活用するように取り組んだ授業実施の教員 85%以上を維持 ［86%］	イ　授業での活用が定着してきているが、目標には届かず 84%であった。他校での具体的な実践例を参考にするなどし、効果的な活用をめざしたい。（△）
	（２）希望する進路の実現	（２）	（２）	（２）
	ア　一人ひとりの生徒が希望する進路の実現	ア　・進路の実現のために、前向きな姿勢で全教職員が全力で生徒をサポートする。 ・進学講習や面接練習、個別対応を継続的に行う。 ・各種検定試験の受験を奨励し、講習を実施、取得者の表彰を行い、自己肯定感を向上させ、将来の進路に生かせるようにする。	ア　・３年生診「自分の希望した進路に満足」90%台の維持[98%] ・検定の受験者合計 180 人以上［184 人（英検 20, 漢検 70, 情報検 73, ワープロ検 20, ﾊﾝｸﾞﾙ能力検１）］	ア・進路指導部、３学年担任団の寄り添った指導が 94%という結果に現れたので、この状態を継続したい。（◎） ・英検 18 人、漢検 38 人、情報処理検定 62 人、ワープロ検定 54 人が受検。計 172 人となった。資格取得の意義を今後も生徒に伝え、受検奨励に努める。（△）
	イ　キャリア教育	イ　・進路ガイダンスを実施し、様々な進路について早い段階から考える機会を設ける。 ・高専大連携として出前授業を実施する。	イ　出前授業参加者へのアンケート肯定率 80%以上　［新設］	イ　生徒のニーズに合った講座を用意できたことが生徒に評価され肯定回答 98.6%であった。（◎）
	（３）主体的・対話的で深い学びの実現、授業力、観点別評価	（３）首席を中心に「授業見学週間」や「研修」を実施し、全教職員が授業改善に取り組む。	（３）教診「授業力改善」肯定率 80%［75%］	（３）授業見学期間に見学しやすい時間割としたことなどが奏功し、肯定率 90%。（◎）
２　多様で変化が激しい社会で生き抜く力の育成	（１）規範意識の定着	（１）	（１）	（１）
	ア　遅刻指導体制の充実	ア　家庭とこまめに連絡を取り、粘り強く遅刻指導を行い遅刻者数を減少させる。	ア　・年間遅刻者数を前年度より減少させる。[3280] ・皆勤賞を受ける生徒を全校生徒数の５%以上とする。［新設］	ア・年間遅刻者数 4212。これまでの指導方法を検証し、新たな指導方法を検討する必要がある。（△） ・皆勤の生徒数は 48 人で全校生徒数 668 人の 7.2%となった。（○）
	イ　SC・SSW 連携	イ　支援委員会を中心に SC・SSW と連携しながら、寄り添う姿勢を大切にする。	イ　生診「困った事や悩みがある時、相談できる先生がいる」肯定率 70%以上維持[70%]	イ　各担任、学年団、教育相談などが連携し、生徒の変化をとらえて声をかけることを実践し、ほぼ目標の 69%となった。寄り添う姿勢を継続する。（△）
	（２）特別活動等の活性化	（２）	（２）	（２）
	ア　各種行事や部活動の活性化	ア　部活動体験や部活動を応援する発信をし、部活動の良さをアピールして、加入率を向上させる。	ア　部活動加入率 38%以上［36%］	ア　１年生だけでなく、２・３年生にも入部の声かけをし、38%を達成した。（○）
	イ　特別活動や検定試験への参加促進	イ　終業式等の全校集会時に該当生徒に守口東激励賞を贈り、特別活動や検定試験への参加を奨励する。	イ　部活動表彰や検定合格者等に 25 人/回以上贈る。[30 人/回]	イ　守口東激励賞は 27 人/回。自己肯定感を向上させるよう、生徒の良い点を伸ばすようにしたい。（○）
	（３）心の教育の実践	（３）	（３）	（３）
	ア　他者理解や自分を大切にする心の教育	ア　人権ＨＲや各行事等を通して生徒が他者を理解し、思いやりの心を持つとともに、自らも大切にする心を育てる。	ア　生診「生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」肯定率 80%以上	ア　各学年の人権ＨＲや外部講師による講演会などが生徒の心に残った結果 91%と高い肯定率となった。（◎）

府立守口東高等学校

	イ　いじめへの迅速かつ適切な対応	イ　いじめを認知した際には、いじめられた生徒の立場に立って、迅速かつ適切に対応する。	［新設］ イ　生診「先生はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率 85%以上を維持[86%]	イ　各教職員の日常の生徒に対する接し方、いじめアンケートの結果を受けての聞き取りなどの結果 86%となった。（○）
	（４）防災体制の構築	（４）南海トラフ地震等の今後発生が予想される自然災害等に則した避難訓練（予告なしを含む）を実施する。	（４）具体的な災害を想定した避難訓練２回[２回]	（４）避難経路が使用できない状況をあえて作るなど、具体的な避難訓練２回実施。（○）
３　地域に愛される魅力ある学校づくり	（１）情報発信と外部組織との連携 ア　校種間交流や地域コミュニティとの連携	（１） ア　・地元中学校への出前授業や中学校内説明会への参加を積極的に行う。 ・中学校・支援学校の授業見学、交流を実施する。	（１） ア　・出前授業、説明会５回以上維持[８回] ・中学校・支援学校の授業見学、交流を３回以上実施 [４回]	ア・出前授業、説明会は計８回参加。（◎） ・近隣の中学校等の授業見学、ボランティア部や生徒会の生徒による支援学校との交流を計４回行った。交流は続けていきたい。（○）
	イ　情報の発信と、中学生の行きたい学校	イ　・Web ページを活用して本校の取り組みや魅力を発信し、ブログを含め記事を随時更新する。 ・正門横電光掲示板で生徒や地域の方に向けたメッセージを時期に応じて変更する。 ・学校説明会、オープンスクール等を参加者にとってわかりやすく、内容をしっかり伝え、満足度の高いものにする。	イ　・ Web ページ更新 130 回以上 [新設] ・保診「Web ページやメルマガで学校の様子がよくわかる」肯定率 75%以上[74%] ・電光掲示板 20 回以上更新 [26 回] ・学校説明会等の参加者アンケートの肯定評価 80%以上 [新設]	イ・Web ページ 168 回更新（◎） ・Web ページ更新は目標を上回り、行事予定などをメールマガジンで案内することを心がけたが 69%であった。Web ページのリニューアルを検討したい。（△） ・更新回数 27 回（◎） ・２回の学校説明会とオープンスクールの参加者の肯定評価 99.6%であった。（◎）
	（２）地域に愛され保護者に理解される学校	（２）地域との交流の機会をもち、保護者に理解される学校運営を行う。	（２） ・保診「守口東高校の校長、教職員は学校をより良くしようと頑張っている」肯定率 75%以上 [新設]	（２） ・地域交流（中学生との部活動交流、小学生を招いた公開講座など）を実施した結果 82%であった。地域との交流を続けたい。（◎）
	（３）国際交流の推進	（３）授業等を通して、インターネットによる交流や外国の方を本校に招いた直接的な交流を行う。	（３）国際交流を２言語で計２種類以上行う。[２言語計４種類]	（３）英語、中国語、韓国・朝鮮語で各１回ずつ実施。３言語３種類実施。（○）
４　働き方改革の推進と機能的な校内体制の整備	（１）働き方改革の推進	（１）働き方改革の推進として、業務の見直し、修正などの取組みを進める。	（１）教診「働き方改革を進めようと意識している」肯定率 70% [新設]	（１）肯定率 74%。新規に学年用携帯電話を導入した。可能なところから業務の見直しを継続的に行う。（○）
	（２）働きやすい職場の実現	（２）安全衛生委員会で得られた産業医の専門的な情報を職員に提供する。働きやすい職場の実現をめざすとともに、上司・同僚からのサポートに努める。	（２）ストレスチェック「職場の総合健康リスク」教育庁全体平均ポイント以下を維持［88 ポイント/教育庁全体 99 ポイント］	（２）職場の総合健康リスクは、教育庁全体平均ポイント 98 に対して本校ポイントは 91 であった。しかし、昨年に比べると３ポイント悪くなっており、次年度に向け、協力体制を今以上に意識するなど、働きやすい職場環境作りに取り組む。（○）